

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
大阪観光専門学校	昭和60年3月30日	植田 宏美	〒530-0003 大阪市北区堂島2-3-11 (電話) 06-6344-5259																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人Adachi学園	昭和43年5月14日	安達 暁子	〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台二丁目11番地 (電話) 03-5283-6288																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																						
商業実務	観光専門課程	ブライダル学科	平成6年文部科学省 認定	-																						
学科の目的	ブライダル業界への就職を希望する学生に、業界で必須となる技術と知識を教示し、ブライダル業界で有用な人材を育成することにより業界の発展に寄与する。																									
認定年月日	平成30年2月27日																									
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																				
2	1920	512	576	0	0	832																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
140人	54人	0人	3人	15人	18人																					
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期ごとの試験評価、平常評価による																						
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月26日～9月5日 ■冬季:12月20日～1月9日 ■学年末:3月20日～4月4日		卒業・進級 条件	卒業条件:試験・提出物評価などに合格し、規定の授業時間数を履修した者で、本校所定の過程を修了し、かつ学費を完納した者。 進級条件:卒業見込者																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人のカウンセリング、保護者との連絡・連携により対応を行う。		課外活動	■課外活動の種類 エクステンション講座、ボランティア、学園祭・体育祭の実行委員等 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)																						
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) 阪急ウェディング、株式会社エスクリ、ピーイー株式会社ほか ■就職指導内容 業界研究、履歴書・エントリーシート添削、面接練習、マナー指導 担任並びにキャリアセンターによるカウンセリング ■卒業業者数 34 人 ■就職希望者数 34 人 ■就職者数 33 人 ■就職率 97.05882353 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 97.05882353 % ■その他 ・進学者数: 1人 (令和2年度卒業者に関する 明治33年1月0日 時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブライダルコーディネーター 技能検定</td> <td>③</td> <td>33人</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td>パーソナルカリスト検定</td> <td>③</td> <td>33人</td> <td>23人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するが記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等</p>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ブライダルコーディネーター 技能検定	③	33人	25人	パーソナルカリスト検定	③	33人	23人								
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																							
ブライダルコーディネーター 技能検定	③	33人	25人																							
パーソナルカリスト検定	③	33人	23人																							
中途退学の 現状	■中途退学者 4名 令和2年4月1日時点において、在学者73名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者69名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 2名 経済的理由 2名 ■中退防止・中退者支援のための取組 欠席者への日々の連絡、学校行事(研修、学園祭、体育祭等)への参加促進、奨学金案内、転校手続等		■中退率	5%																						
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有・無 ※有の場合、制度内容を記入 校友会入学時奨学金制度、校友会進級時奨学金制度、AO特待生制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																									
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有・無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																									
当該学科の ホームページ URL	https://www.daikan.ac.jp																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について  
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について  
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

学生が実務的専門知識・技術を習得することは、社会においてその貢献や意義は大きく高等教育において専門学校的位置づけは更にその度合いを増している。その状況において、本校が企業との連携によって教育機会を提供することは、社会への貢献度が増し、企業が要望する人材の育成に繋がる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校法人Adachi学園設置、大阪観光専門学校に係る業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、学術関係者から選出し、校長が委員の中心となり委員会を設置。委員会の意見等は校長配下の各学科の分科会等で具現化する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
山崎 誠	旅行地理検定協会	平成31年4月1日～令和5年3月31日	①
富原 敦	帝国航業株式会社	平成31年4月1日～令和5年3月31日	③
戸口 貴之	サンヨー航空サービス株式会社	平成31年4月1日～令和5年3月31日	③
下城 惇	東方典礼カトリック教会	平成31年4月1日～令和5年3月31日	③
高井 均	北条鉄道株式会社	平成31年4月1日～令和5年3月31日	③
朴 美玲	スイスホテル大阪南海株式会社	平成31年4月1日～令和5年3月31日	③
富澤 利加	ハイアットリージェンシーオーサカ	平成31年4月1日～令和5年3月31日	③
植田 宏美	大阪観光専門学校 校長		
加藤 和幸	大阪観光専門学校 教員		
前田 匡論	大阪観光専門学校 教員		
谷口 香織	大阪観光専門学校 教員		
中川 綾	大阪観光専門学校 教員		
森本 めぐみ	大阪観光専門学校 教員		
藤井 幸也	大阪観光専門学校 教員		
岡本 一美	大阪観光専門学校 教員		

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。  
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、9月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年3月26日 15:00～16:00

第2回 令和3年9月17日 15:00～16:00 ※コロナ対応の為11月に延期

第〇回 令和〇年〇月〇日 〇〇:〇〇～〇〇:〇〇

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

専攻分野の業界団体、企業様より当該産業分野全体の成り立ち、企業分野での実務(開発、生産、流通、利潤の獲得、利潤の再分配、再生)の流れを授業に取り入れてカリキュラムの編成を行う。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学期開始前に企業より派遣される講師と授業・実習期間の学習姿勢評価及び学期末試験、各認定試験への取り組みを打合せ、内容を決定する。実習終了時には、添乗実習の実施や通常の実習授業の成果に基づき、講師により講評や成績評価をいただく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業と連携し、講師を派遣していただき、ブライダル業界で必要とされる基礎知識を修得する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
ヘアアレンジ	衣装のイメージに合ったスタイリングのバリエーションを知り、本格的なアップスタイルの技術までを習得する。	(株)Shiny
フラワー技能士(実技)	フラワー装飾技能士試験合格のための実技を実習を通して学ぶ。	(株)グリーンブロッサム

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「研修等」を実施し、教員として必要な知識の質の向上を図り、学生の知識・技能の修得と充実した学生生活を提供できるよう、定期・不定期に関わらず関係教職員の指導力向上を目指すことを目的として実施するものとする。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「 新型コロナ感染症に対するサービス業の対応について 」連携企業等： ザ・リッツ・カールトン大阪 )

期間：令和3年3月24日(水) 対象： ホテル学科・ブライダル学科講師

内容： 不特定多数の顧客が集まるホテルにおいて、コロナウイルスをはじめ感染症に対する対応方法を学び学生に還元する

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「 精神的な問題を抱えた学生への接し方 」(連携企業等：なし 本校心理カウンセラー )

期間：令和3年3月18日(木) 対象：全教職員

内容：精神的な課題のある学生に対し、心理的な側面から適切な接し方を学び、学生指導に活かす。

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「 ホテル業界・ブライダル業界が求める人材 」(連携企業等： ハイアットリージェンシー大阪 )

期間：令和4年3月〇日( ) 対象： ホテル学科・ブライダル学科講師

内容： ホテル業界、ブライダル業界が求める人材に必要な資質・能力を見極め、学生指導に活かす。

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「 授業の効果的な運営方法 」(連携企業等：なし 本校教員がレクチャー )

期間：令和4年3月 日( ) 対象：新任教員を含む全教員

内容：新任教員に対して授業の運営方法を指導し、効果的に履修効果を向上させる方策を考える。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針  
 学校自己評価や日常の学校教育に対しての評価・意見内容を教育活動面と学校運営面に分別し、学務・広報・事務の各部門で運営方針に照らし協議・検討を行う。  
 その結果授業内容に取り入れたり改善・修正を要する場合は、部門より責任者会議に具体的な稟議案件として上申し、最終的な判断をすることによって、学校関係者評価の効果的な活用を図る。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	学校の理念、学校の目的・特色の明確化と育成する人材像
(2) 学校運営	運営方針に即した事業計画の策定、運営組織の意思決定機能の円滑化と適正な運用
(3) 教育活動	職業教育に適したカリキュラムの策定に際し、その学科の関係する業務との密な連携とそれに対応する教職員の能力開発・研究の実施
(4) 学修成果	学生の学校継続率、就職率の向上
(5) 学生支援	在学生への経済面・健康面・生活面全般への支援体制、並びに卒業生支援の整備
(6) 教育環境	授業運営上の付属施設、設備、実習施設の環境及び防災体制の確認
(7) 学生の受入れ募集	学生募集の適正さと活動上における教育成果の正確な伝達の確認
(8) 財務	予算・収支計画の有効性と、財務面の適正化
(9) 法令等の遵守	法令の遵守、個人情報取り扱い確認
(10) 社会貢献・地域貢献	—
(11) 国際交流	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

基本法人に即し、とりわけ学科の教育目標、育成人材が業界のニーズに対応できているか、カリキュラムは体系的に編成され、各教科目はカリキュラムの中で適正な位置づけが行われているか、卒業者就職率・求職者就職率・専門業界就職率の工場が図られているかなどの点を学校関係者評価委員からの評価を重視し、学校運営に活かす。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
橋本 匡史	株式会社東京ビジネス	平成30年4月1日～令和4年3月31日	企業等委員
下城 惇	東方典礼カトリック教会	平成30年4月1日～令和4年3月31日	企業等委員
中村 かおり	イズミヤカード株式会社トラベル事業部	平成30年4月1日～令和4年3月31日	企業等委員
高井 均	北条鉄道株式会社	平成30年4月1日～令和4年3月31日	企業等委員
朴 美玲	スイスホテル大阪南海株式会社	平成30年4月1日～令和4年3月31日	企業等委員
富澤 利加	ハイアットリージェンシーオオサカ	平成30年4月1日～令和4年3月31日	企業等委員
山本 真弘	株式会社夢幻社	平成30年4月1日～令和4年3月31日	企業等委員
森本 博士	株式会社創英	平成30年4月1日～令和4年3月31日	卒業生保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <https://www.daikan.ac.jp/>

公表時期: 令和3年10月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校全般の状況を広く学校関係者他に情報提供することによって、学生・保護者、業界関係者への理解、信頼を深め、社会に対する説明責任を果たす。また企業、関係団体とは連携、協力を行うことによってカリキュラム策定の際に助言・指導をいただき実践教育の質を高めることを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	建学の精神、所在地、校長名、沿革、歴史
(2) 各学科等の教育	設置学科の入学定員・収容定員・在学学生数、カリキュラム、進級・卒業要件、資格・検定
(3) 教職員	教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動
(6) 学生の生活支援	健康診断、カウンセリング体制
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金、経済的支援活動
(8) 学校の財務	資金収支計画書・消費収支計算書・貸借対照表
(9) 学校評価	自己評価表
(10) 国際連携の状況	—
(11) その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <https://www.daikan.ac.jp/>

授業科目等の概要

(観光専門課程鉄道サービス学科)																	
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
1	○			カラー検定対策	色彩能力検定合格に向けた授業。ブライダル・ビューティ業界で必須の色彩に関する基本を学ぶ。	1前	32		○			○				○	
2	○			ドレス知識	ドレスの形や色などの基本を学び、顧客に対する適切なアドバイスができるよう知識を習得する。	1前	32		○			○				○	
3	○			ブライダル概論	婚約から挙式、披露宴に至るブライダル産業に必要な基礎知識を学ぶ。	1前	32		○			○					○
4	○			セルフメイク	他人にメイクを施す前に自分自身に時と場所に応じたメイクができるよう技術を学ぶ。またメイクの備品や商品知識を身に付ける。	1前	32				○	○					○
5	○			業界・企業研究	ブライダル、ビューティ業界各社の企業概要と特徴を学び、自身が希望する企業を定め、就職活動に役立てる。	1前	32		○			○					○
6	○			フラワーアレンジメント	挙式や披露宴に欠くことができない「花」の知識を身に付けるとともに、基本的なアレンジメント技術を習得する。	1前	32				○	○					○
7	○			スキンケア知識	挙式前に新婦が行うスキンケアやエステに関する概略と、美容の観点から見た肌の特性を学ぶ。	1前	32				○	○					○
8	○			ホテル概論	挙式・披露宴会場のひとつとしてのホテルの存在を、宴会の観点を中心に学ぶ。	1前	32		○			○					○
9	○			面接対策	対面型及びオンライン型の面接技法の基本を学び、受け答えだけでなく礼儀作法を習得することで面接試験をクリアする技術を身に付ける。	1前	32				○	○					○
10	○			英語指導	英検2～3級の対策講座。レベル別のクラス編成を行い、日本人講師が文法を中心に開設する。	1通	64		○			○					○
11	○			英会話	ネイティブスピーカーとの基礎的なシチュエーション演習を通して、英語によるコミュニケーション能力を高める。	1通	64					○	○				○
12	○			ペン字指導	硬筆書写検定受験に向けての授業。後半は履歴書作成において丁寧な文字の記入を練習する。	1前	32					○	○				○



27			ブライダル実務	婚礼宴会の受注に必要な一連の流れを学び、契約受注から施行までの手続業務を身に付ける。	1 後	32			○		○		○						
28	○		コスチュームメンテナンス	ドレスや和装並びに新郎衣装のサイズ直しなどを通して婚礼衣装の詳細を学び、取り扱い方法を身に付ける。							○	○		○					
29			フラワー技能士(実技)	フラワー装飾技能士試験合格のための実技を実習を通して学ぶ。								○	○				○	○	
30	○		ブライダル実務②③	婚礼宴会の受注に必要な一連の流れを学び、契約受注から施行までの手続業務を身に付ける。	2 通	64			○		○		○						
31	○		ブライダルプランニング	婚礼宴会のプランを考え、模擬披露宴に繋げる。新郎新婦に対する提案の技術も学ぶ。	2 前	32			○		○		○						
32	○		フォーマル&和装実技②	正装としての和装並びに洋装の規定を習得するとともに、正しく気づけることができるよう知識を学ぶ。	2 前	32			○		○		○						
33	○		接客ロールプレイング	婚礼に関する顧客との商談をロールプレイング形式で体感し、様々な事例に即した解決方法を学ぶ。	2 通	96					○	○					○		
34	○		模擬披露宴準備	模擬披露宴実施にあたり、計画と準備を行い様々な形式の披露宴オペレーションを体験する。	2 前	32					○	○		○					
35	○		テーブルコーディネート	披露宴のテーマに合わせ、卓上装花やクロス、メインテーブルなど会場空間をトータルコーディネートする技術を学ぶ。	2 前	32					○	○					○		
36	○		料理飲料知識	宴会に必要な料理及び飲料の知識を学び、祝いの場にふさわしい料理の内容を学ぶ。	2 前	32			○			○		○					
37	○		ウォーキングトレーニング	美しい立ち姿や立居振る舞い、歩き方を習得し、ビジネスマンとしてふさわしい身だしなみを身に付ける。	2 前	32					○	○					○		
38	○		プレゼンテーション	顧客に効果的に商品をお勧めするための説明方法を学び、顧客獲得技法を向上させる。	2 前	32			○			○					○		
39	○		就職指導	就職活動に対する心構え、求人資料の収集、履歴書の書き方などのアドバイスを行い、学生個々の就職希望を把握する。	2 前	32			○			○				○			
40	○		英会話	ネイティブスピーカーとの基礎的なシチュエーション演習を通して、英語によるコミュニケーション能力を高める。	2 前	32					○	○					○		
41	○		PC実習	ビジネスソフト「Office」のWordを使用し、文字入力の練習及びビジネス文書の作成技術を習得する。	2 通	64					○	○					○		

42	○		美肌検定対策	美容としての肌知識だけでなく、健康・医療上の知識も習得し「美肌検定」合格を目指す。	2後	32			○	○	○							
43	○		顧客心理学	顧客が購入・契約に向かうときの心理を学び、購入意欲を掻き立てる話術を習得する。	2後	32			○		○						○	
44	○		ユニバーサルサービス	身体障害者や社会的弱者が障害なく生活できるための様々な工夫を習得し、併せて弱者に対しての理解を深める。	2後	32			○		○						○	
45	○		クレーム対応術	クレームを申し立てるときの心理状態を理解し、クレームを出さない工夫、申し立てられた時の効果的な対処方法を学ぶ。	2後	32			○		○						○	
46	○		コンテストプレゼンテーション①②	様々なウェディングコンテストに出品し、理解を得るための説明を繰り返し、一般の方にもわかりやすい説明の仕方を学ぶ。	2後	64					○	○					○	
47	○		婚礼宴会実習	これまでに学んだ婚礼オペレーションの知識を実習を通して体感し、定着させる。	2後	32					○	○					○	
48	○		上級センスアップ	自分や他人のファッションセンスを1段上に向上させるためのファッションの基礎やトレンドを学ぶ。	2後	32			○		○						○	
49	○		接客手話	聴覚障害者に対するコミュニケーション技法を学び、不特定多数の来客があるホテルサービス業務に役立てる。	2後	32					○	○					○	
50	○		会社実務	企業の構造や税金、社会人としての義務など、社会の一員として生活するうえで知っておきたい権利や義務などを学ぶ。	2後	32			○			○					○	
51	○		冠婚葬祭基礎/宗教学	宗教上の観点からの婚礼の意義を学び、様々な宗派による婚礼方法の違いを知る。併せて葬祭に関する知識も習得する。	2後	32			○			○						○
合計						51科目	1,920単位時間(単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	規定時間の履修及び期末課題（試験）に合格すること	1学年の学期区分
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。